
糖尿病の有無と残歯数・歯周病有病率と栄養状態の関連～通院高齢透析患者での検討

医療法人衆和会 長崎腎病院

○山下実紗 岡田美月 中村麻美 大塚絵美子 澤瀬健次 船越 哲

【目的】

当院に通院中の高齢透析患者の口腔内の状況を調査し、栄養状態との関連を検討する。

【対象・方法】

当院に通院中で75歳以上の透析患者97名(糖尿病:非糖尿病=38名:59名、平均年齢82.2歳)に対し、残歯数の調査、また日本歯周病学会の「歯周病セルフチェックアンケート」を実施し、栄養状態や血糖コントロール等に関連する因子を比較する。

【結果】

全患者における平均残歯数は12.3本であり、また糖尿病群(10.1本)は非糖尿病群(13.7本)に比べて有意に少なかった($p<0.05$)。しかし、歯周病有病率やGNRI・CRPなどにおいて糖尿病群と非糖尿病群で差はなかった。また、糖尿病群の平均GAは $20.1\pm 4.1\%$ と、比較的良好であった。

【考案】

今回の検討では、糖尿病患者において有意に残存歯数が少ないものの、栄養状態は非糖尿病群との差はみられなかった。文献的には残存歯数と栄養状態の相関が報告されているが、今回の検討では対象を高齢者透析患者に絞っており、糖尿病の影響が少ないこと(透析導入の原疾患が腎硬化症など)が示唆される。